



ハイブリッド DWH の実現に向けて

岩見 大介

データエンジニアリンググループリーダー
ライフデザインプラットフォーム部
KDDI 株式会社

自己紹介



岩見 大介

KDDI株式会社

全社で利用するデータ分析プラットフォームの構想、開発および運営を行っています。

2016 年頃よりアジャイル開発とパブリッククラウドの活用にはまり、2020 年よりデータ分析、データ利活用のためのプラットフォーム構築を担当。

- 01 | KDDI のデータ分析基盤の変遷
- 02 | Google Cloud 活用の狙いと選択理由
- 03 | 現在のシステム構成
- 04 | 作ってみての気づき
- 05 | Google への期待



KDDI のデータ分析基盤の変遷

KDDI のデータ分析基盤の変遷

2010

データ分析基盤の構築
(オンプレ)

2017

データ分析基盤の拡張
(パブリッククラウド)

2022

データ分析のクラウドへの集約
Google Cloud での
基盤稼働開始



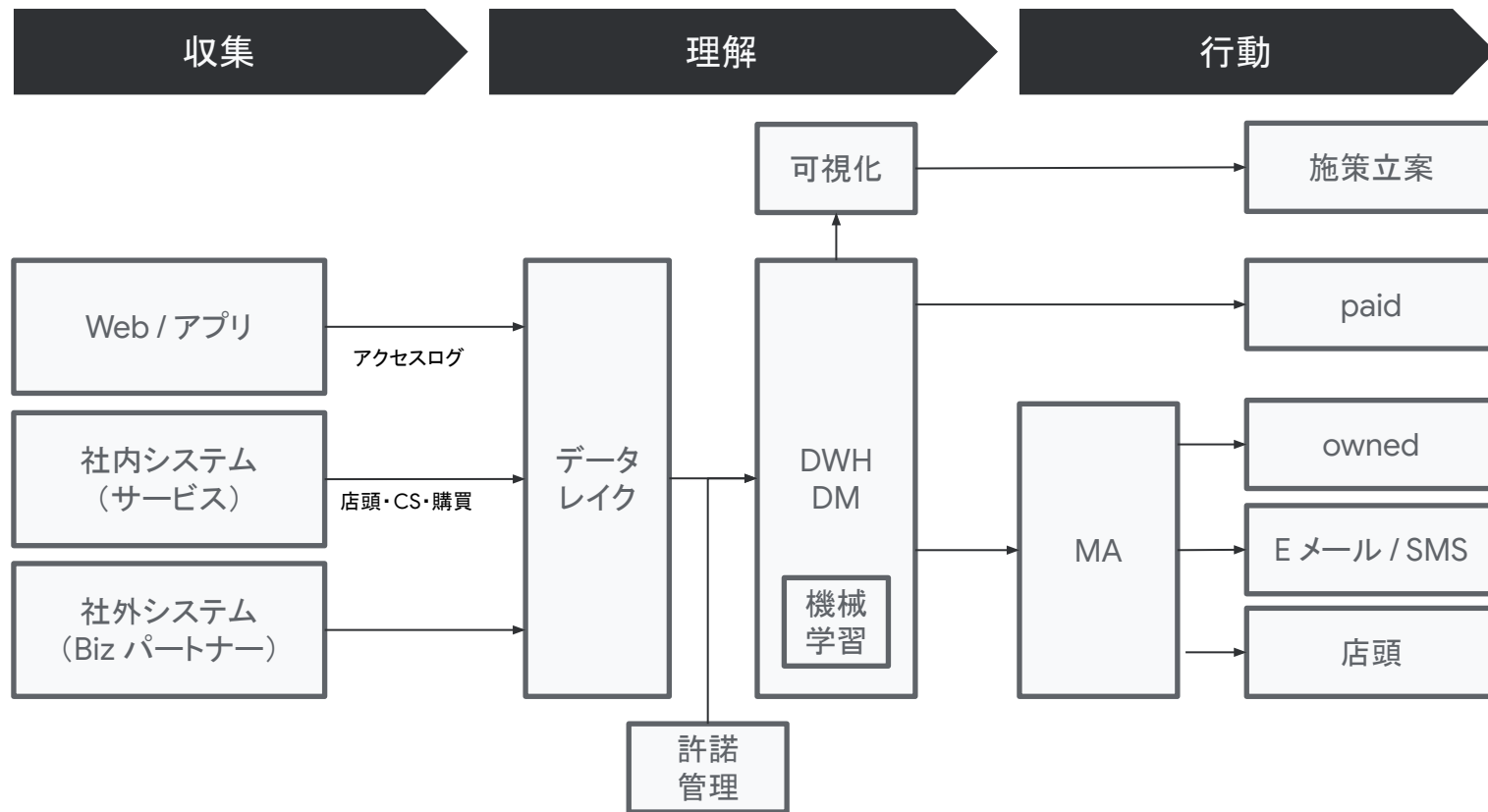
2015

マーケティングオートメーション基盤の構築
(オンプレ)

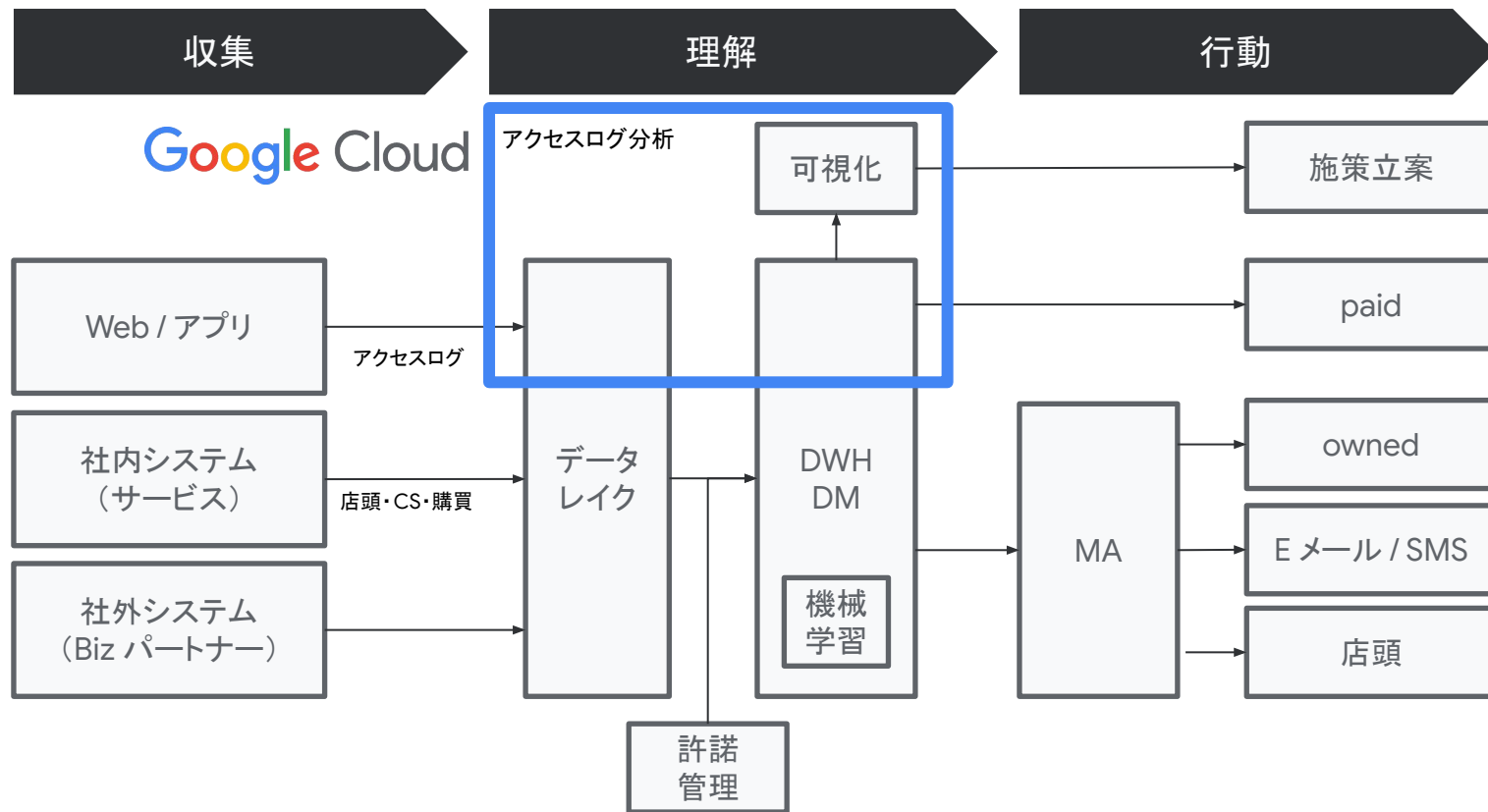
2020

マーケティングオートメーション基盤の更改
(パブリッククラウド)

アーキテクチャ



アーキテクチャ

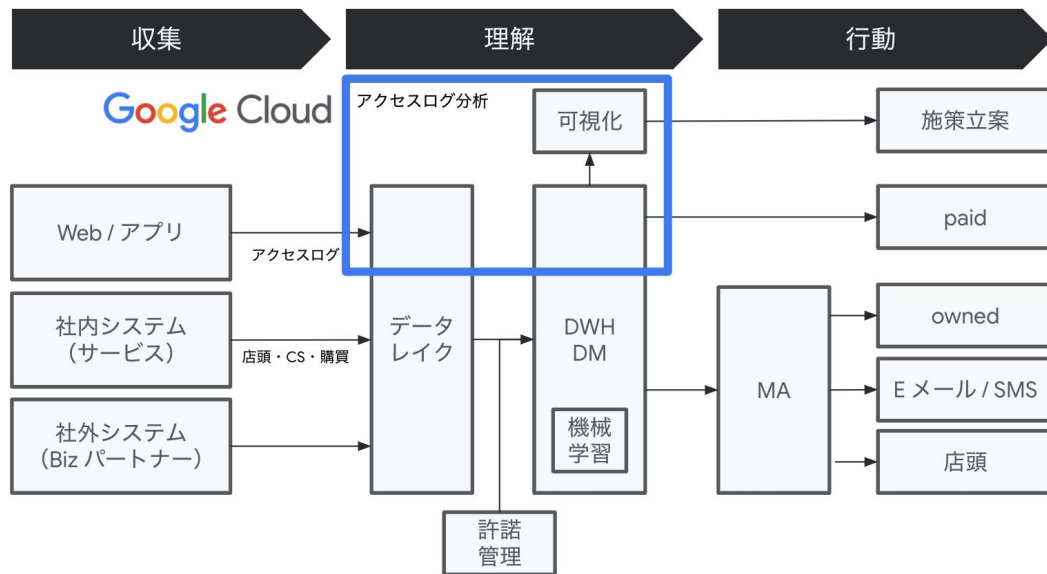




アクセスログ分析での Google Cloud 活用の 狙いと選択理由

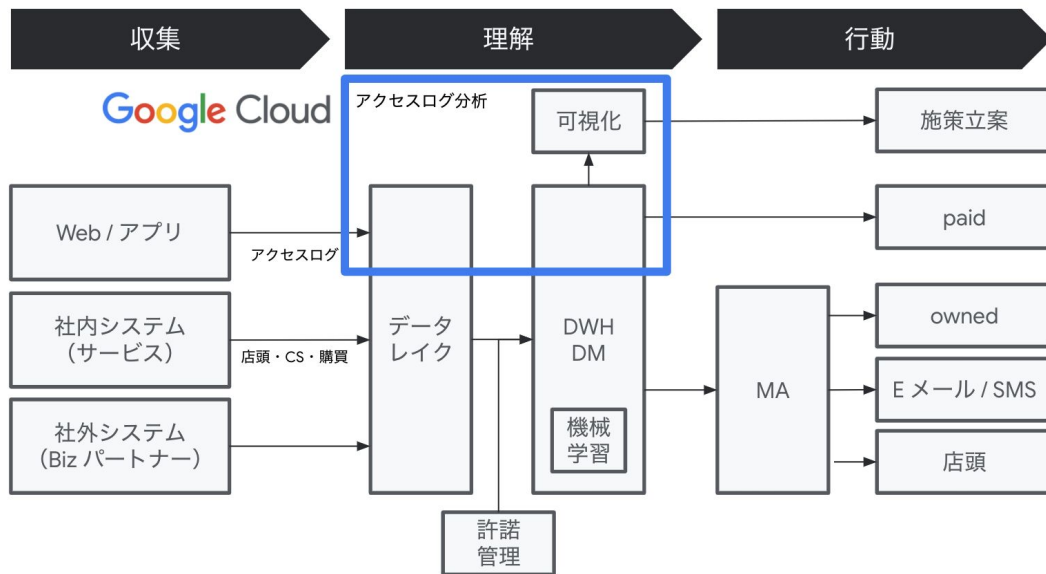
狙い

- Google Cloud を使ってみたかった
- マルチクラウドによる可用性
- 集約から分散へ
- 複数のサービスをまたがったクロスドメインでの分析
- GA360 / GA4



理由

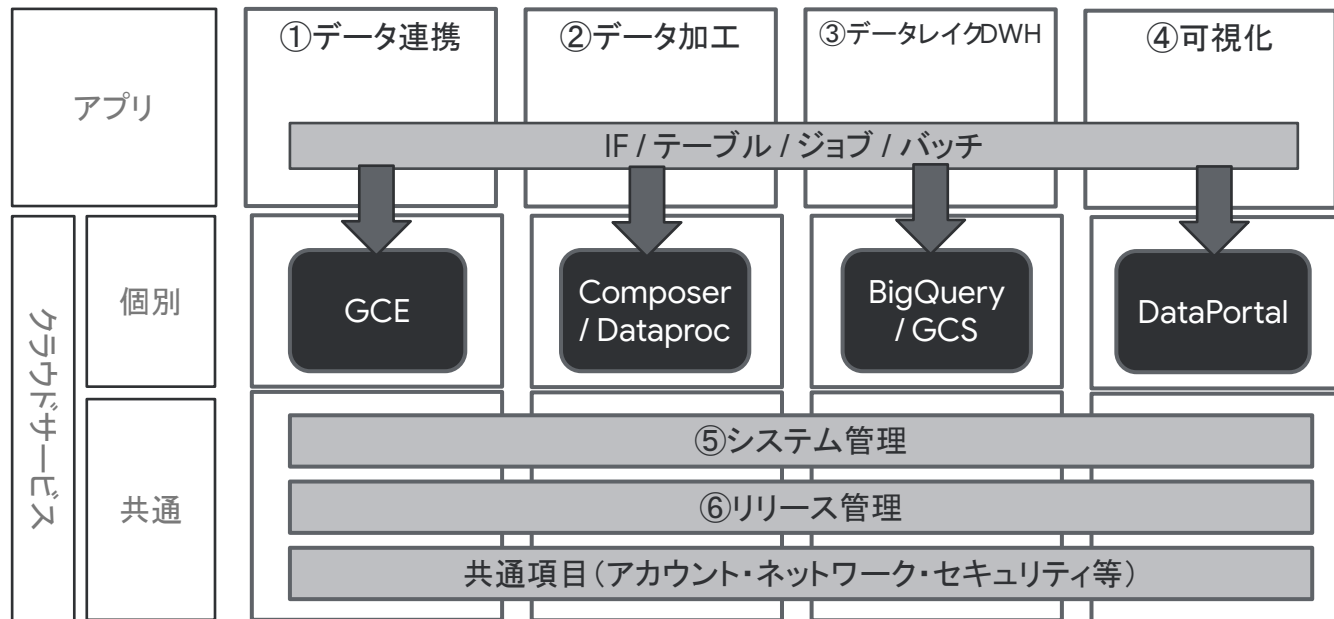
- Google Analytics データの Export 機能
- リアルタイム分析の実現
- データ セキュリティ レベルの担保
- 機械学習への期待 (To be)



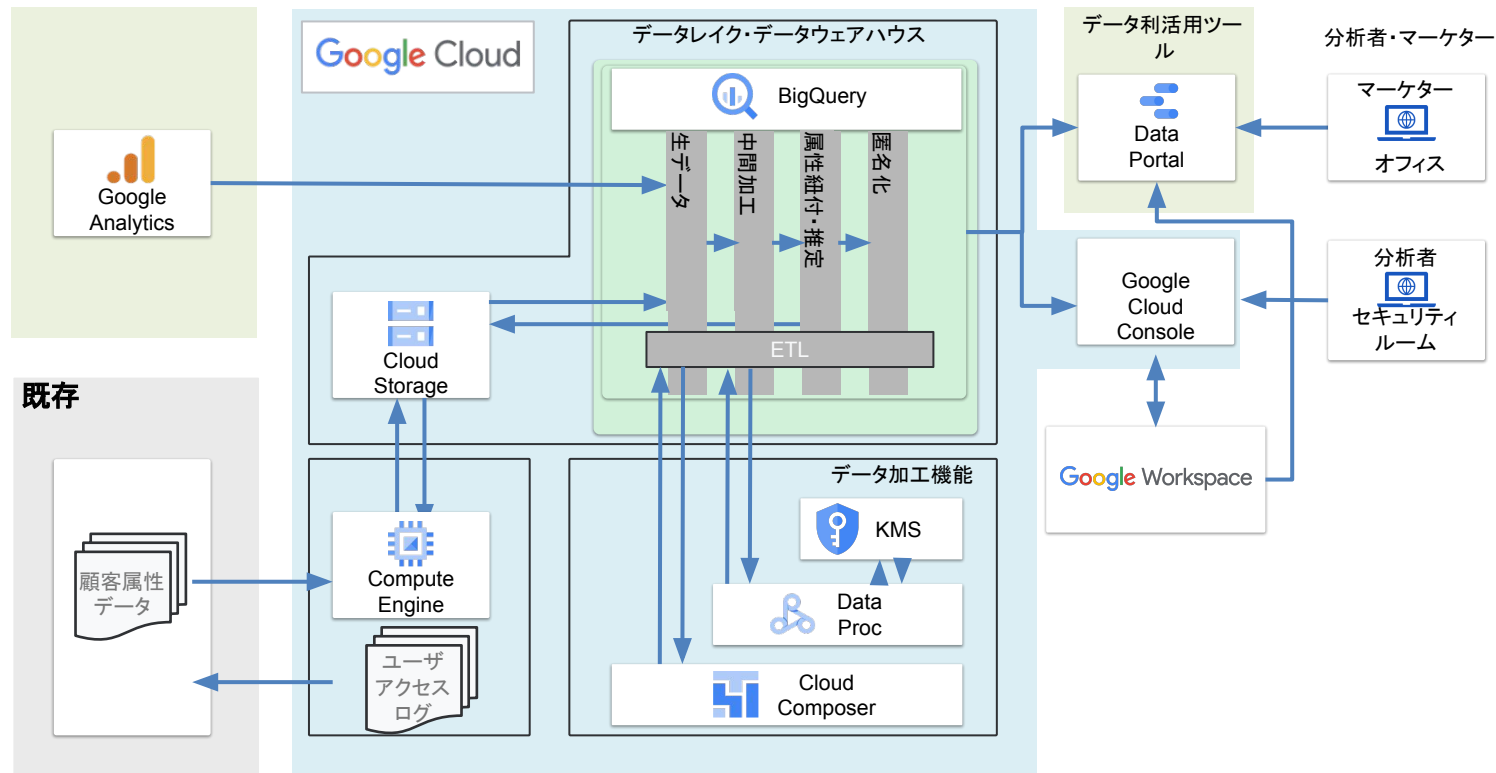


Google Cloud での システム構成

設計方針



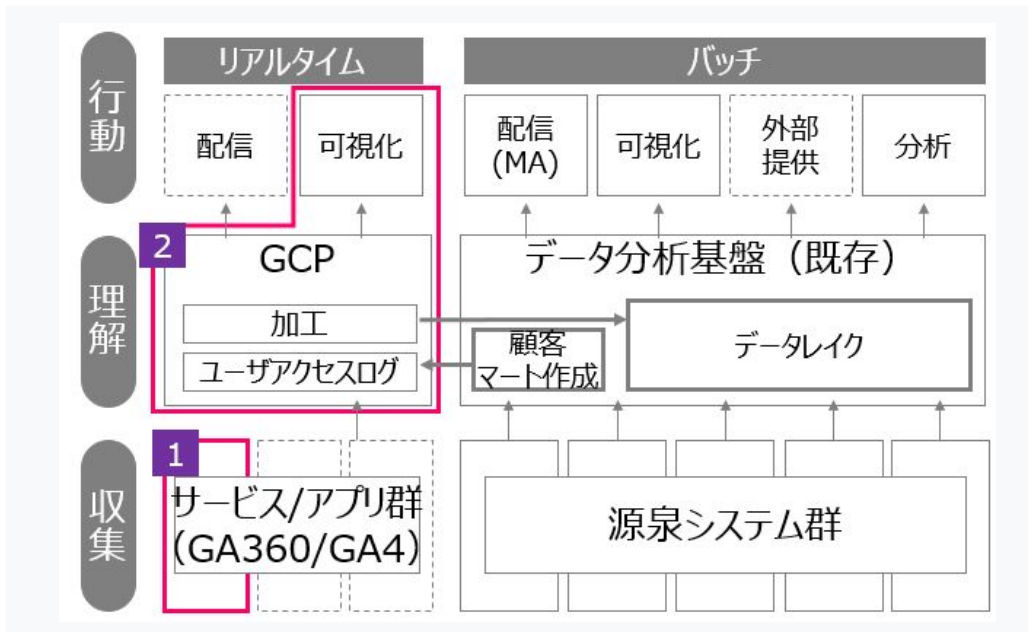
システム構成



特徴 1: 複数サービスを一通貫で分析

複数のサービスにまたがった
データソースをクロスドメインでの
データ分析を実現

OMO (Online Merges with Offline) で
重要となるデータ鮮度の確保

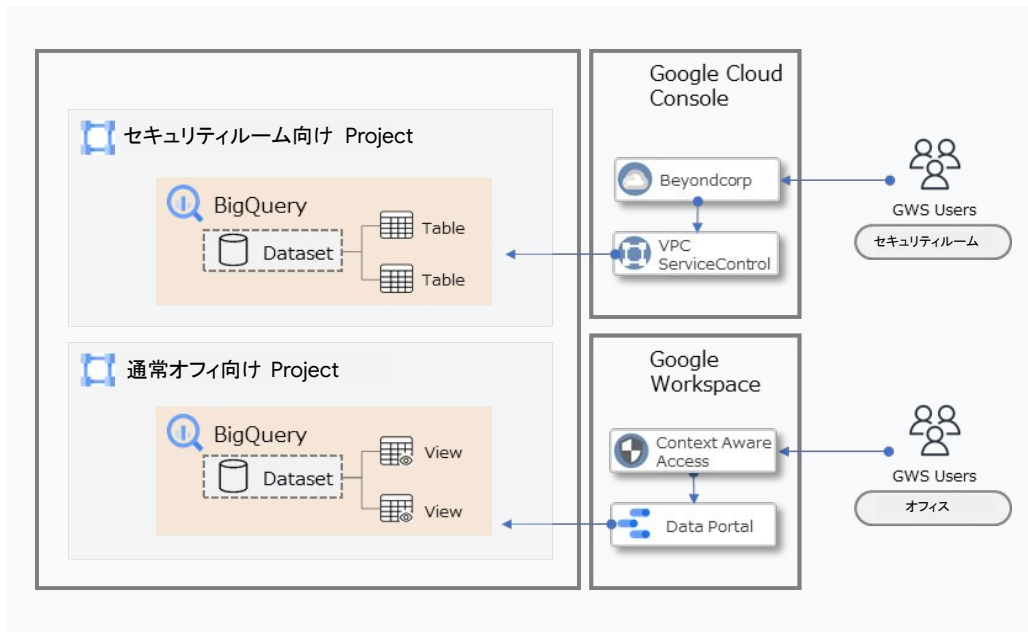


特徴 2: データセキュリティレベルの担保

データ機密レベルに応じた段階的な
セキュリティ確保

分析者、マーケターの自由度を保

データ鮮度を犠牲にしない

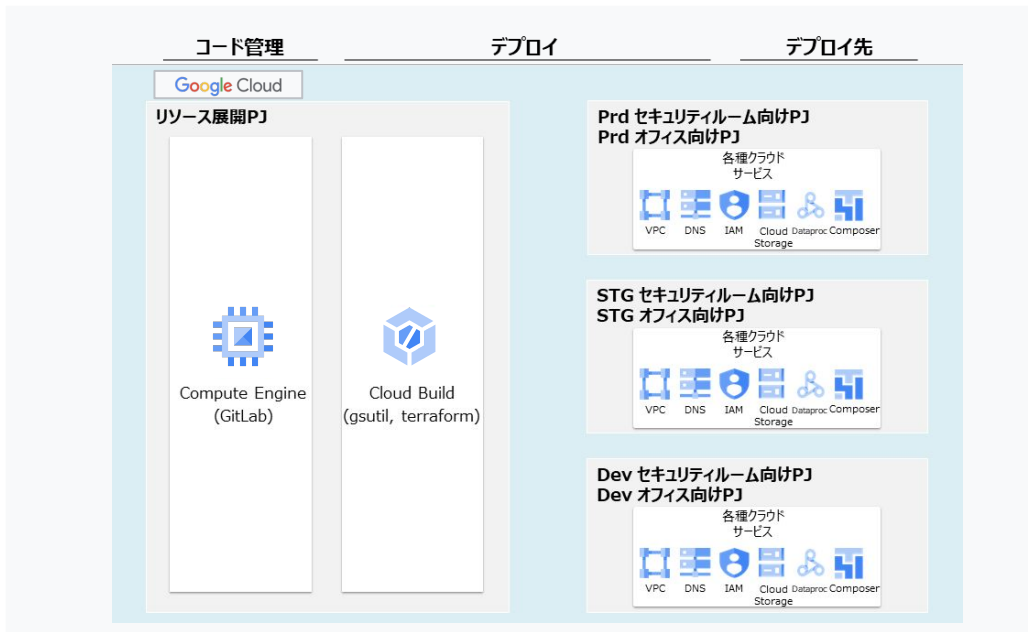


特徴 3: IaC でのインフラ実現

CI/CD プラットフォームとして、
Cloud Build を利用

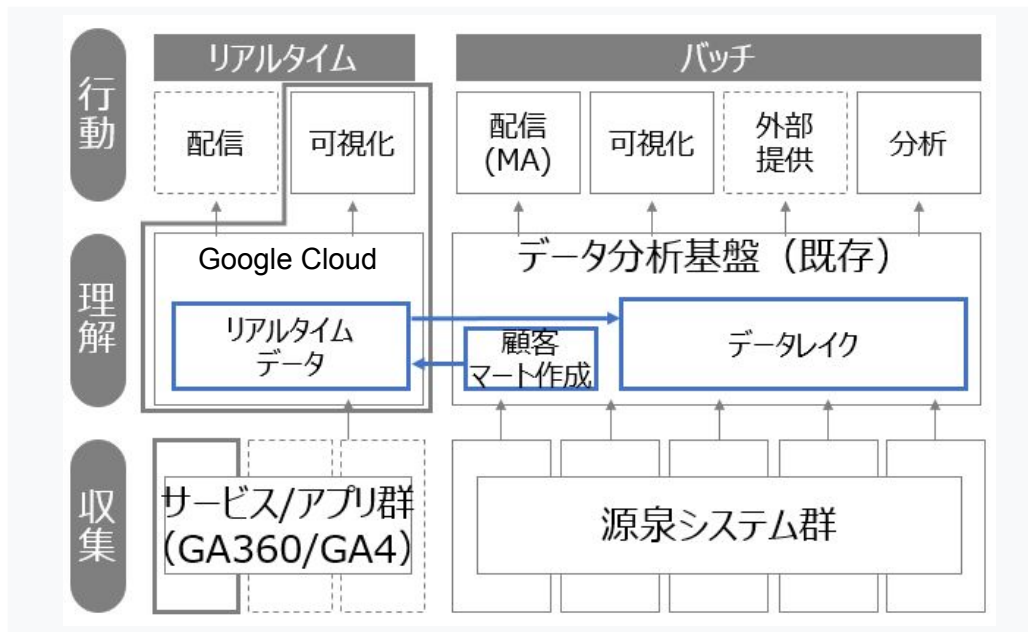
インフラエンジニアは、
データを知得することなく、
Deploy が可能

商用 (Prd) ~ 開発 (Dev) まで、
同一構成で実現



特徴 4: マルチクラウド環境

各システムのデータロケーションを
維持しつつ、マルチクラウドでの
データ分析基盤を構築





作ってみての気づき

気づき

- パートナー企業との接続容易性
- クラウド間の Data Copy 最小化の課題
- メタデータ分散の課題



Google Cloud への期待

期待

- Google Cloud コンソールの閉域利用
- 分散データへのデータ ガバナンス機能の進化
- 機械学習の進化

Thank you.

